

管理会計

長谷川 恵一 教授

1) 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

企業経営・組織運営における管理会計情報の現代的意義について研究している。伝統的な管理会計研究では、製造業あるいは製造活動を中心にとりあげた研究成果を蓄積してきた。しかしながら、現在では、流通業やサービス業などの製造業以外の業種、または、各企業における製造以外の諸活動における管理会計情報の重要性が認識されつつあり、この傾向は今後一層増してくるものと確信している。とくにここ数年は、ツーリズムまたはホスピタリティ・マネジメントに関わる産業、とりわけ宿泊産業における管理会計情報について検討してきた。ただし、このような状況で利用される管理会計情報が従来の製造業あるいは製造活動を中心に用いてきた内容のままに機能するかどうかについては、改めて検討を要する課題だと思われる。そのため、理論的な考察のみならず、実務における有用性についても吟味していきたい。

このような管理会計情報の変革を研究するにあたっての具体的なフレームワークとして、ここ数年間バランスト・スコアカード(Balanced Scorecard: BSC)を中心にとりあげ、これに興味のある研究者たちと共同研究を行ってきた。現在、BSCは、欧米のみならず、日本の企業・組織においても導入が進みつつあるので、日本の企業・組織に適したBSCについてのより詳細な研究を展開できるものと考えている。

2) 指導方針

当研究指導では、管理会計情報のあり方に関して各自が設定した研究テーマについて、その研究成果を学術論文としての体裁および内容をともなう完成度の高い論文としてまとめることを目標としている。具体的には、管理会計およびその周辺領域に関して、主として英語による文献・資料をとりあげ、各自が設定したテーマについての研究報告を中心として議論をしていくかたちをとりながら、1で述べたような研究指導担当者の目的意識にもとづいた視点から、論文の作成に向けての指導を行うことになる。この過程では、各自の研究テーマについての問題意識と理解を常に深めていく努力が求められる。

3) 学生に対する要望・その他

当研究指導には、以下の点について十二分に理解した方に応募していただきたい。

- ①管理会計および原価計算についての基礎的な知識があること。
- ②英語によって書かれた文献・資料を読む機会が多いため、専門的な英語についての読解力が必要であること。
- ③大学院では、受動的な姿勢でなく、自らが研究テーマを設定し、自らが問題を探求する姿勢が求められること。